2027年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年８月13日

上 場 会 社 名　　ヒロタグループホールディングス株式会社　　上場取引所　　名
コ ー ド 番 号　　3346　　URL　https://hirotaghd.com/
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長　　（氏名）　遠藤　隆史
問合せ先責任者　（役職名）　取締役　　（氏名）　瀬山　剛　　TEL　03-6281-4007

配当支払開始予定日　　―
決算補足説明資料作成の有無　　：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第１四半期の連結業績（2026年４月１日～2026年６月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期第１四半期	378	△15.3	16	―	14	―	216	―
2026年３月期第１四半期	447	△24.6	△92	―	△95	―	△72	―

（注）包括利益　2027年３月期第１四半期　　216百万円（　　―%）　2026年３月期第１四半期　　△72百万円（　　―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期第１四半期	8.21	―
2026年３月期第１四半期	△2.75	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期第１四半期	1,089	370	34.0
2026年３月期	1,071	154	14.4

（参考）自己資本　2027年３月期第１四半期　　370百万円　　2026年３月期　　154百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2027年３月期	―				
2027年３月期(予想)		0.00	―	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,484	△12.3	10	―	0	―	149	―	5.68

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：　無

新規　　―社（社名）　　、除外　　―社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期１Ｑ	26,306,253株	2026年３月期	26,306,253株
②　期末自己株式数	2027年３月期１Ｑ	117株	2026年３月期	117株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年３月期１Ｑ	26,306,136株	2026年３月期１Ｑ	26,306,136株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
（４）継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
第１四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
第１四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 9
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、中東情勢の影響を注視する必要があるものの、雇用・所得環境の改善等により景気は緩やかに回復しております。その一方で、食品業界においては、原材料価格の高騰や物流費の上昇に加え、値上げに対する消費者の節約志向の高まりにより、依然として厳しい状況が続いております。このような状況のもと、当社グループは前連結会計年度より引き続き、収益率重視の経営方針のもと、不採算事業からの撤退と事業構造改革を推進しております。

以上の結果、当第１四半期連結累計期間におきましては、売上高378,876千円（前年同四半期比15.3%減）、営業利益16,804千円（前年同四半期は92,800千円の営業損失）、経常利益14,527千円（前年同四半期は95,491千円の経常損失）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は216,087千円（前年同四半期は72,327千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。売上高は事業構造改革に伴う不採算店舗・直営事業からの撤退等により前年同四半期を下回ったものの、グループ全体での販売費及び一般管理費の圧縮が大きく進んだ結果、営業損益・経常損益はともに黒字に転換し、収益構造の改善が着実に進んでおります。

セグメント別の状況は、次のとおりです。

＜スイーツ事業＞

（洋菓子のヒロタ）

製造特化体制のもと、４月・５月は目標とする日産水準を上回って製造・出荷を行い、着実に成果を上げてまいりました。６月は大型連休後の需要変動があったことに加え、天候の影響もあり、日産水準は目標をやや下回ったものの、原価低減及び販売管理費の圧縮の効果が継続し、四半期を通じて営業黒字を確保いたしました。直営店舗（新橋駅前店）につきましては、前年同期を上回る売上高を確保する一方、人員体制の見直しに合わせて営業日の見直しを行うなど、収益性の維持・向上に取り組んでおります。

（トリアノン洋菓子店）

三鷹工場に係る不動産につきましては、2026年6月30日付で売却の決済が完了し、当第１四半期において固定資産売却益を特別利益として計上いたしました。同工場の稼働は6月をもって終了し、直営店舗（高円寺・大久保）を中心とした販売体制の強化及び商品開発に注力する体制へと移行しております。直営店舗につきましては、季節要因や客数動向を踏まえた販売体制の見直しを継続しております。

この結果、スイーツ事業におきましては、セグメント売上高は352,986千円（前年同四半期比14.0%減）、セグメント利益は27,337千円（前年同四半期は69,742千円のセグメント損失）となりました。

＜美容ヘルスケア事業＞

（ＭＥＸ商事）

免税店向けを中心としたインバウンド需要に対応した販路開拓を進めております。前連結会計年度に外部環境の変化により大幅に減少した中国からの訪日観光客につきましては、当第１四半期において緩やかな回復傾向がみられ、当第１四半期を通じて安定的な収益を確保いたしました。

この結果、美容ヘルスケア事業におきましては、セグメント売上高は25,889千円（前年同四半期比30.2%減）、セグメント利益は23,952千円（前年同四半期比28.5%減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第１四半期連結会計期間の財政状態は、総資産は、前連結会計年度末に比べ18,405千円増加し、1,089,565千円となりました。これは主に、流動資産において現金及び預金が206,942千円、売掛金及び契約資産が43,446千円、棚卸資産が43,634千円増加した一方、トリアノン洋菓子店の三鷹工場に係る土地288,000千円を含む有形固定資産の売却により固定資産が減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ197,683千円減少し、719,295千円となりました。これは主に、固定負債において長期借入金が136,725千円、繰延税金負債が58,940千円、資産除去債務が29,622千円それぞれ減少した一方、流動負債において前受金が30,319千円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ216,088千円増加し、370,269千円となりました。これは、親会社株主に帰属

する四半期純利益216,087千円を計上したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年５月15日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

（４）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失117,066千円、親会社株主に帰属する当期純損失35,514千円を計上し、引き続き営業活動によるキャッシュ・フローがマイナス（104,045千円の支出）となっております。

当第１四半期連結累計期間におきましては、洋菓子のヒロタにおける製造特化体制への転換効果や、グループ全体での販売費及び一般管理費の圧縮が進んだ結果、営業利益16,804千円、経常利益14,527千円を計上し、収益性の改善が進んでおります。また、トリアノン洋菓子店の三鷹工場に係る不動産売却が完了し、固定資産売却益を特別利益に計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は216,087千円となりました。

もっとも、これらの改善は事業構造改革の効果及び三鷹工場売却に伴う特別利益の計上によるところが大きく、継続的な収益力の回復を裏付けるには至っていないことから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が引き続き存在しております。

継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況を解消するためには、引き続き、従来の経営戦略を抜本的に見直し、利益を追求するために、聖域なき事業の見直しを行ってまいります。

なお、現段階で改善するための対応策は以下のとおりです。

＜スイーツ事業＞

（洋菓子のヒロタ）

卸売事業を中心に製造に特化する体制への転換を完了しており、今後も商品開発や原価低減に注力し、既存事業の収益性の改善を図ってまいります。

（トリアノン洋菓子店）

三鷹工場の閉鎖及び売却により固定費負担を軽減するとともに、直営店舗の販売体制強化及びシーズンに応じた商品開発を継続しながら、財務体質の強化を図ってまいります。

＜美容ヘルスケア事業＞

（ＭＥＸ商事）

免税店向けの販売を中心に展開し、インバウンド需要の拡大を確実に取り込むとともに、前連結会計年度に外部環境の変化により大幅に減少した中国からの訪日観光客について、中国以外の国・地域からの誘客にも注力し、マーケティングを強化することで、安定的な収益基盤の維持及びさらなる収益回復を図ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上にあり、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (2026年６月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	218,786	425,728
売掛金及び契約資産	260,163	303,609
棚卸資産	178,804	222,438
その他	41,045	41,579
流動資産合計	698,799	993,356
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,409	17,848
機械装置及び運搬具（純額）	893	8,371
その他（純額）	529	458
土地	288,000	―
建設仮勘定	4,730	4,730
有形固定資産合計	302,562	31,408
無形固定資産		
その他	932	873
無形固定資産合計	932	873
投資その他の資産		
敷金及び保証金	55,431	53,659
繰延税金資産	―	456
その他	8,117	5,378
投資その他の資産合計	63,548	59,495
固定資産合計	367,044	91,776
繰延資産		
株式交付費	5,316	4,432
繰延資産合計	5,316	4,432
資産合計	1,071,160	1,089,565

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (2026年６月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	144,476	151,583
1年内返済予定の長期借入金	40,440	25,702
未払法人税等	2,132	22,855
未払金	72,196	73,907
未払費用	23,641	22,498
前受金	155,840	186,159
店舗閉鎖損失引当金	3,800	―
その他	24,331	14,419
流動負債合計	466,858	497,125
固定負債		
長期借入金	234,217	97,492
繰延税金負債	58,940	―
資産除去債務	31,355	1,733
長期未払金	125,607	122,945
固定負債合計	450,120	222,170
負債合計	916,978	719,295
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	248,805	248,805
利益剰余金	△194,592	21,494
自己株式	△30	△30
株主資本合計	154,181	370,269
純資産合計	154,181	370,269
負債純資産合計	1,071,160	1,089,565

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年６月30日）
売上高	447,313	378,876
売上原価	296,821	283,889
売上総利益	150,491	94,987
販売費及び一般管理費	243,292	78,183
営業利益又は営業損失（△）	△92,800	16,804
営業外収益		
受取配当金	36	4
その他	651	140
営業外収益合計	688	145
営業外費用		
支払利息	2,070	1,409
株式交付費	920	883
その他	387	128
営業外費用合計	3,379	2,422
経常利益又は経常損失（△）	△95,491	14,527
特別利益		
法人事業税還付金	21,342	―
固定資産売却益	―	142,304
資産除去債務戻入益	3,632	27,000
特別利益合計	24,974	169,304
特別損失		
事業整理損	―	4,285
特別損失合計	―	4,285
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△70,516	179,545
法人税、住民税及び事業税	856	22,856
法人税等調整額	953	△59,397
法人税等合計	1,810	△36,541
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△72,327	216,087
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△72,327	216,087

四半期連結包括利益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年６月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△72,327	216,087
四半期包括利益	△72,327	216,087
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△72,327	216,087

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失117,066千円、親会社株主に帰属する当期純損失35,514千円を計上し、引き続き営業活動によるキャッシュ・フローがマイナス（104,045千円の支出）となっております。

当第１四半期連結累計期間におきましては、洋菓子のヒロタにおける製造特化体制への転換効果や、グループ全体での販売費及び一般管理費の圧縮が進んだ結果、営業利益16,804千円、経常利益14,527千円を計上し、収益性の改善が進んでおります。また、トリアノン洋菓子店の三鷹工場に係る不動産売却が完了し、固定資産売却益を特別利益に計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は216,087千円となりました。

もっとも、これらの改善は事業構造改革の効果及び三鷹工場売却に伴う特別利益の計上によるところが大きく、継続的な収益力の回復を裏付けるには至っていないことから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が引き続き存在しております。

継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況を解消するためには、引き続き、従来の経営戦略を抜本的に見直し、利益を追求するために、聖域なき事業の見直しを行ってまいります。

なお、現段階で改善するための対応策は以下のとおりです。

＜スイーツ事業＞

（洋菓子のヒロタ）

卸売事業を中心に製造に特化する体制への転換を完了しており、今後も商品開発や原価低減に注力し、既存事業の収益性の改善を図ってまいります。

（トリアノン洋菓子店）

三鷹工場の閉鎖及び売却により固定費負担を軽減するとともに、直営店舗の販売体制強化及びシーズンに応じた商品開発を継続しながら、財務体質の強化を図ってまいります。

＜美容ヘルスケア事業＞

（ＭＥＸ商事）

免税店向けの販売を中心に展開し、インバウンド需要の拡大を確実に取り込むとともに、前連結会計年度に外部環境の変化により大幅に減少した中国からの訪日観光客について、中国以外の国・地域からの誘客にも注力し、マーケティングを強化することで、安定的な収益基盤の維持及びさらなる収益回復を図ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上にあり、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第１四半期連結累計期間（自　2025年４月１日　至　2025年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)１	四半期連結損益計算書計上額(注)２
	スイーツ事業	美容ヘルスケア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	410,236	37,076	447,313	―	447,313
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	410,236	37,076	447,313	―	447,313
セグメント利益又は損失(△)	△69,742	33,506	△36,236	△56,564	△92,800

(注) １．セグメント利益又は損失の調整額△56,564千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第１四半期連結累計期間（自　2026年４月１日　至　2026年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)１	四半期連結損益計算書計上額(注)２
	スイーツ事業	美容ヘルスケア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	352,986	25,889	378,876	―	378,876
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	352,986	25,889	378,876	―	378,876
セグメント利益	27,337	23,952	51,290	△34,486	16,804

(注) １．セグメント利益の調整額△34,486千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)の償却額は、次のとおりであります。

	前第１四半期連結累計期間(自　2025年４月１日 至　2025年６月30日)	当第１四半期連結累計期間(自　2026年４月１日 至　2026年６月30日)
減価償却費	377千円	578千円